

誌 上 ギ ャ ラ リ ー ト ー ク



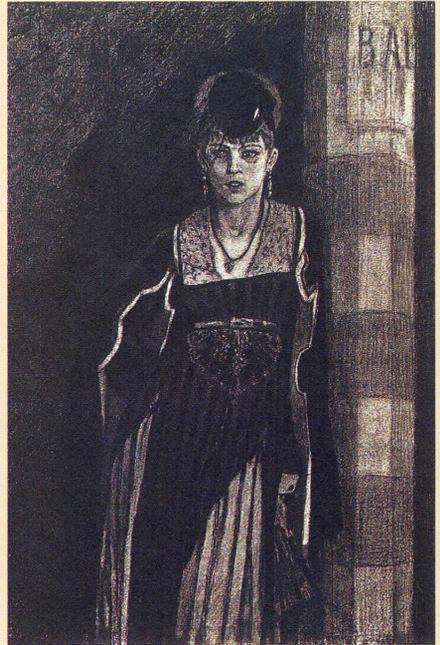
《屬子と操り人形を持った貴婦人》1873年

「属子と操り人形を持った貴婦人」1873年。山内利恵の代表作。静謐な風景画なども展示され、ロップスという画家を新たな角度から鑑賞・お楽しみいただけると思います。

山内利恵

エロティックで、危険で、悪魔的な画家といわれるフェリシアン・ロップスは、1833年ベルギーの地方都市ナミールの裕福なブルジョワ家庭の一人息子として生まれました。早くから辛辣な諷刺画家としての才能をあらわし、1862年には成功を夢見てパリに出ましたが、パリに着くや否やその快楽的生活に耽溺してしまわれました。ロップスは何よりも女たちの虜となり、そのエロティックな肢体を追い求めました。デッサン用の手提げ鞆を持ち歩き、美しい女がいると聞くとどこへでも見に行つたといわれます。彼は「私は何としても我々の時代をありのままに描きたいのだ。」と主張し、自分の目に映るパリの魅力をそのまま表現したいと熱望していました。大都市パリとその底辺(安酒場やサーカス小屋や高級娼婦や売春婦など)を描くことに自分の絵画の「リアル(近代性)」を見出そうとしたわけです。

ロップスが好んで描いた女性性は「ロップスの女性像」といわれますがその典型の一つといえるのが「アブサンに溺れる女」(右図版)です。飲酒という悪癖のもたらす絶望感、鋼のように冷酷な目をした荒涼たる女性のイメージを描くことで、彼は華やかなパリの底辺にどよももの鏡をこらえています。また、「屬子と操り人形を持った貴婦人」(左図版)での女性の手の中の操り人形を象徴しており、女性がこの世に及ぼす支配力の大きさを表現しています。ロップスは「男は女にとりつかれており、女は悪魔にとりつかれており」と言っています。彼自身、悪魔のような女のエロスに魅入られ、妻や恋人を複数持ち、愛の頹廃そのものに深く身を沈めていたのです。1878年以降、ロップスはパリで最も有名で、最も報酬の高い挿絵画家となっており、また同時に、生涯を通じて研究に打ち込んだ腐食銅版画のすばらしい名手でもありました。その他に今展覧会では静謐な風景画なども展示され、ロップスという画家を新たな角度から鑑賞・お楽しみいただけると思います。



《アブサンに溺れる女》1876年頃

フェリシアン・ロップス展—まなざしは、悪魔か神か？—



ジャン=アントワヌ・ワトー《待ちうけられる愛の宣言》1716年頃



ジャン=シメオン・シャルダン《果物、瓶と陶器》1764年頃
その中から2点、紹介します。

まずはワトーによる「待ちうけられる愛の宣言」をよくみてみましょう。登場人物は画面の右にピラミッド型にまとめられ、左奥に広がる遠景と対比をなしています。私たちが視線を投げかけるフルート奏者が人物の頂点をしめくり、人々の穏やかな様子と手前の青年の固い表情が対照的です。美しい光が洗練された衣服を引き立てる中、内気な青年が花を手を視線を引く傍らに座る美しい女性へ愛の告白をどうきりだしたらよいか思索しているようです。ワトーはロココ絵画の中でも、貴族たちが戸外で集い、優雅な男女が楽しむ愛のムードを描いた「雅宴画(フエット・ギヤフント)」という新しいジャンルをうみ、1717年にアカデミーに認められました。次にシャルダンによる「果物、瓶と陶器」です。批評家のデイドは1763年に「シャルダンがバレットの上で練り碎いているのは物の実体そのもの、画布の上に注ぐのは空気と光なのだ」といいます。よく見てみるとこの作品では、キエールの瓶が画面中央から左に移動されたことがわかりますが、色をつけたそれぞれの物をとどろ配置すれば、そこにある空気までを描くことができるか、シャルダンが試行錯誤した様子がかえります。さて、ロゼワインやコアントローでも知られるアンジエですが、芸術を堪能したあと、秋の夜長にちよと二杯というの大人の楽しみですね。

小嶋麻紀

アンジエ美術館展—巨匠たちの奏でる「雅な宴」—

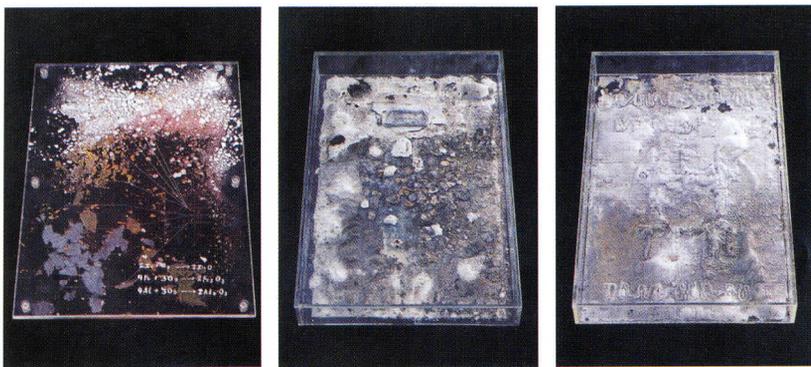
高松市美術館コレクション

西村陽平「伝道之書」知識を増す者は憂いを増す

1977年/亜鉛板・鉄・アクリル/32.5×44×2.5(高)cm 30×4.5×6(高)cm×2点
高松市美術館蔵

やきものと言うとどのようなものか、浮かぶぞうか? 渋く落ち着いた味わいをもつ壺やお茶碗など日本の伝統的なやきものを思い浮かべた方も多いと思いますが、ここでは少し違ったやきもの作品を紹介します。

これは、亜鉛、鉄、アルミニウムの板を焼き、白くした焼けあとをそのままアクリルケースに収めた作品です。



三種類の金属の変容の状態を本のように並べてその崩壊の過程がとらえられるようになっています。

作者の西村陽平(1947-)はこのような金属のほか、石や紙、本など、様々な物質を出来るだけ手を加えずに1000度以上の高温で焼き、そのままの状態で見せる作品を制作しています。焼かれて灰と化した物質は不思議な存在感をもつ見る者に迫ります。

火はあらゆるものを焼き尽くしすべてを灰にします。しかし一方で、火は新しい命を与えてよみがえらせる力も持っています。やきものとは、ぶつ、後者のような火の性質を利用してものをいいますが、西村は火を「蘇生」ではなく、「崩壊」のための手段として使用します。彼にとつて、火による物質の変容は「復活」や「蘇生」ではなく、「崩壊への過程」なのです。そして、「崩壊する物質を通して『生』そのものを捉える試み」と作者が述べているように、作者は崩れゆくものの中に、逆説的に「生」を見出そうとします。たとえば、意外にも美しい姿となって現れた、塩の結晶のような金属板の最後の姿に、作者は「生」を見出しているのかもしれない。

この作品は2002年度第3期常設展(現代のやきもの)さまざまな試み(11/4まで)に展示されています。ぜひ実物をご覧になってアクリルケースのなかに出現した驚異(?)の小宇宙をご鑑賞ください。

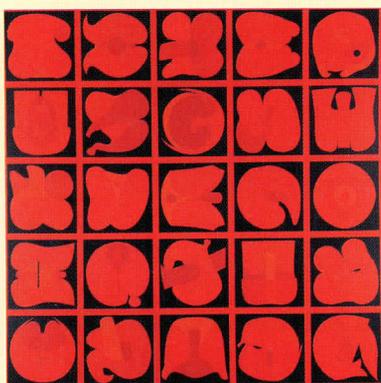
【細山理加・牧野裕二】

Kawashima Takeshi 川島猛 インタビュー



高松市出身のアーティスト川島猛氏(ニューヨーク在住)に、香川県文化会館で開催された「ニューヨーク熱きまなざし川島猛展」(7・29-9・1)の会期中、お話を伺う機会に恵まれました。

1963年にニューヨークに放立されて40年、米国で精力的に制作活動を続けられている川島氏は、前回の高松市美術館で個展をされてから13年ぶりの故郷での展覧会。県文化会館のホールに立つと、ステンドレスでできた現実のものをゆがんで映し出す鏡のような作品が私たちを迎えてくれ、不思議の世界にタイムトリップします。次に鉄の枠で形作られた灯籠のような作品によって森のなかへと誘われ、次の部屋に足を踏み入れると万華鏡を覗いているときのようにわくわくとした楽しい気分になる絵に出会います。「川島ワールド色」となった会場で、川島さんはやさしくすべてを包み込んでしまうような様なトーンでお話してくださいました。



川島猛(N.Y.20) 1965年 高松市美術館蔵

Q・13年前の高松市美術館の回顧展にも出品されてしまった夢の島、理想郷がテーマの「ドリームランドシリーズ」をずっと作り続けられてますか?

「絵を描くとき、世の中の暗い面、人間の矛盾した面、または社会派的なことをテーマにして描く人もいるが、ぼくは生きていく時の「極楽浄土理想郷」を描いている。人が生きていくといふことは、時に辛いことや悲しいことばかりでなく、時には辛いことや悲しいこともあり、元気で暮らしていることも突然病気になることもあって、思い通りの人生を送ることはなかなかできない。でもそのことを悲しんだり恨んだりするのではなくて、絵の中で青年時代の純粋な気持ちのままに、理想郷を描いているんです」。

Q・今回の展覧会の準備をされているときに、「9・11ニューヨーク同時テロ事件」が起きました。「アトリエから15分のところにある以前僕の住んでいたタウンで起きてね。瞬のうちにあらゆるものが変わってしまい千変万化。しばらくは絵が描けなくなつて。今回の展覧会のテーマも決まらなくなつて。そんな折り、覗くとくると模様が変わって消え、また新しい模様が見れる。まさに千変万化の万華鏡が糸口となり今回の展覧会テーマ(万華)が誕生したそうです。今回の展覧会は絵画、鉄やステンレスを用いた立体作品として衝立のような作品と変化に富んでいます」。

Q・今回の(万華)シリーズは素材を色々変えることで、表現方法は異なるけれど、テーマもモチーフもイメージも同じで表現の多様性を表しています。そして展示する場所や空間によっても作品を自由に組み立てることが出来るんです。また、ライティングによつて映し出すと影がまた違ったイメージにもなる。(万華)シリーズはスターとしてばかり。これから10年ずーっと続くテーマとしてやりますよ」。

高松市美術館の収蔵作品についても川島氏にお聞きしました。

Q・ニューヨークに渡つて最初に手がけられた「赤」と黒のシリーズで、格子状に仕切ったカンパスの中の家紋を思わせる抽象的なフォルムの作品(N.Y.20)については?

「紋章の影響を受けたとよく言われますね。それもあってですが、公園住宅では同じように区切られた部屋がたくさんあって洗濯物も同じように干してあり、同じ様な人生を送つて死を迎えるように見える。でも実はそれぞれ違ったライフ・生活を送っている。格子はその公園住宅を表している」。

Q・「絵の作りを専門的に言えばコンポジションやいろのトーン、またムーブメントがうまくできた方がいい絵で、非常にうまくできると賞をもらえるんだが、ぼくはそれが嫌です。できるを否定し、同じ四角のなかに同じ色彩でえがいてイメージだけで伝えようとした絵なんです」。

Q・(N.Y.76-J.T.25)については?

「この作品は200点シリーズで、ずーっと続く絵なんだが区切りが必要で、そのために黄色く塗られたパネルがあるんです。そして区切つては繋ぎ区切つては繋いでどのようにも組み合わせる事が出来るんです」。



川島猛(N.Y.76-J.T.25) 1976年 高松市美術館蔵

「フルは空、白は雲を表している。雲はチヨト見ないとすぐ形が変わり、千変万化で人間の人生と同じなんです。同じ形でとまることのない雲を無機的な形にしてデザインにしなければいけません。人間だから有機的な形として表現している」。

「僕の作品はいつも人間が中心であることに変わりがないんです」。

川島氏は「讃岐は明るい人々が多い」と話されましたが、天来の明るいお人柄や包容力は初対面の者をも魅了しました。弘法大師・空海の生まれ故郷、お接待の心が脈々と伝わっているようにも思えます。高松に帰郷して10歳は若返ってニューヨークに戻られることでしょうか。次の新しい風がニューヨークから吹くのを楽しみにしております。

【榎原信子】

あつたあつた?

美術館6

civiと一緒に美術館を探
索してみませんか?今回は皆様
を図書室へご案内しましょう。

2階展示室へ続くスロップの
途中にある踊り場右手、中2階
の隠れ家のような空間に図書
室があります。大きく弧を描い
たガラスに面した、開放的な室
内にある蔵書は美術図書が約
1万8千冊、各地の美術館から
の寄贈による図録が約1万1
千4百冊です。入ってすぐ左手
には、新着図書、子供図書、美術
雑誌のコナー。右側には総記
から始まり8つに分類された美
術書が並びます。

え、子供に美術書なんて難し
いでしょう?「こんでもない。
子供たちもちゃんと図録をバラ
バラ眺めていますよ」とおっしゃる
のは今回お話を伺った図書室司
書の武田さん。一日の平均来室
者は30名程ですが、最近では親子
連れも増えてきたそうです。特
に催しものの期間は図書室を
覗いていく人も多くなりまし
す。本の閲覧だけでなく、パソコン
で資料の検索ができるのも、CD-
ROMの形式で発行された図
録が見れるのもこの図書室なら
ではのこと。お話を伺っている間
にも外部からの問い合わせや美
術館職員からの蔵書の確認な
どの電話がどんどんかかります。
やはり多いのは印象派の画家た
ちに関する問い合わせだそう
です。また最近では現代美術作家
奈良美智に関する問い合わせが
特に多いそうです。それらに迅
速に対処する武田さん。利用さ
れる方の満足度も高く、「基本
的な資料、特に日本現代美術の
資料が充実しています。何よ
り落ち着いた雰囲気です。読書が



できます!」展覧会の際に図録を
購入し忘れても、こちらに来れば
後で大抵のものは見ることがで
きますから便利ですよ」といつた
声がかげまされた。残念なのは
貸出ができないことですが、これ
らの図書は学芸員の研究図書も
兼ねているので「借り下さい」との
ことです。「何といっても全国の
美術館の図録が数多くそろって
いるのがこの図書室の特徴です。
図書室に並んでいる物以外にも、
書庫にたくさんございますので、



リクエストして下されば、
ご覧いただけます。
現在開催中の各地の
展覧会の情報も入り
ますので、お気軽に
ご利用下さい」とのお話
でした。さて、図書室
の隣、1階を見下ろす
スペースにはハイビジ
ョンライブラリーもあ
ります。その中でも名曲
美術館は人気が高いそ
うです。また、地元作
家を紹介する番組が
あり、作者の生の声も
聞ける興味深いもの
となっています。

ところで、図書室にも
ハイビジョンライブラリーにも現
代作家の彫刻が展示してあるの
にお気付きでしょうか。図書室の
カウンター横には、関根伸夫の
《命相一円をかく》そしてハイビジ
ョンライブラリーのコーナーには保田
春彦の《都市の方位一南から北へ
(3)》、どちらも静けさが滲み出
てくるような作品です。「こんな
所にも作品が!」と思わせる粋な演
出の中で、皆さん読書の秋を楽し
んでみませんか? 【富岡洋子】

美術館の今後の予定 (10~3月)

【特別展】

フェリシアン・ロップス展

9.20(金)~10.20(日)
19世紀を代表する画家・版画家であるフェリシアン・ロップスは、
ロマン主義的・幻想的作風で知られています。本展では、生地
ベルギー・ロップス美術館の収蔵品を中心に、油彩画、水彩画、
版画など約130点よりロップスの特異な芸術世界を回顧します。

アンジェ美術館展

11.1(金)~12.8(日)
アンジェ美術館は、フランス西部のメーズ川沿いに位置する市立
美術館です。本展では、同地方の領主が収集したリヴォワ・コレク
ションを中心にワト、フラゴナール、シャルダンなど17~19世紀を
代表する画家の作品約80点を展示します。

知られざる西アフリカの美術展

2003 2.21(金)~3.23(日)
近・現代の美術家がアフリカ美術に
触発され、新たな芸術を創作した
ことは知られていますが、一方でア
フリカ美術そのものはあまり知ら
れていないのが現状です。本展では、
西アフリカ地域の輝かしい歴史を辿り、
アフリカ美術の奥深い魅力と溢れる
美を展覧します
知られざる西アフリカの美術展より《騎手の
プレート/ベニン(ナイジェリア)》©SVK



【常設展】

第3期常設展 8.24(土)~11.4(月・祝)
展示室1:《現代のやきもの-さまざまな試み》戦後、やきもの世界に
登場した用途を持たない、オブジェとしてのやきものを紹介。
19作家による多種多様な作品30点。
展示室2:《日本伝統工芸展の作家たち》日本工芸会主催により毎年
開催される日本伝統工芸展に出品された香川の漆芸家
20人による27点を紹介。
第4期常設展 11.9(土)~1.19(日)
第5期常設展 1.25(土)~3.30(日)

【アートで遊ぼう! (作品を「じっくり見る」ための鑑賞プログラム)】

対象:小学3~6年生 定員:各15名(申込制・先着順)
時間:午前10時~11時30分
開催日:内容:10.26(土) フロッグー・ジュ(擦り出し)で美術館に触れてみよう!
11.16(土) 見てみたい、食べてみたいフランス美術!
2.22(土) ゲームでアートを楽しもう!
3.15(土) アフリカの動物表現をまねっこして...
* 参加費無料、日時・内容は変更する場合があります
その他、冬休みにワークショップを開催予定

私達と鑑賞をご一緒にませんか?

美術館ボランティア
「civi(シヴィ)」による
ギャラリートークは特別
展会期中の毎日曜日お
よび祝日の午前11時~
午後2時~1日2回、2階
展示室にて行います。

作品や作家などの知られざるエピソードが聞けるかも?

編・集・後・記

- 残暑厳しい折の原稿作成でした。過ぎゆく夏を惜しみつつも秋がほちど
おしい!!秋の楽しみといえはいろいろ 【小嶋麻紀】
- 今回、初めて現代作家・川島猛氏にお会いして作品を作られたときの
背景や作品の解説を直接お聞き出来、今後G・Tするときのキーワードと
なるものをたくさん授かったことはラッキーなことでした。 【榎原信子】
- ギャラリートークの度に市美の美術図書室のお世話になる私。今回、
改めて蔵書の多さ、情報の豊かさに驚かされました。これからどんどん
活用していくつもりです。 【富岡洋子】
- 資料探しのためひさしぶりに図書館へ行きました。しびの一のおかけで
最近遠ざかっていた「本」にまたまっています。 【細山理加】
- 何かとあわただしかった夏ですが、ふと気がつけば秋の気配がすぐ
そこに。ロップスの描くパリという都市-その奥の深さに驚かされつつ、
原稿を書き終えてホッと息... 【山内利恵】
- 今回絵巻を調べていくうちに、いきいきとした人物や、生活の描写に改めて
驚くと同時に奥の深さも感じました。その影響で今「読解き伴大納言絵巻」を
読んでいます。 【吉田光子】
- シブも10月で活動3年目に突入。今までにギャラリートークを聴かれた方の
人数はどれくらいになるのでしょうか。1回あたり平均15人として、それを
今年の9月末まで134日間(112回)していただきますので、ざっと4020人の方が
聴かれたこと。今後も多くの方に満足していただき、「市美にシブあり」と
言われる存在になってもらいたいです。我々職員も負けず頑張りましょう
【高松市美術館学芸員 牧野裕二】
- ベルギーのナムール市にあるフェリシアン・ロップス美術館を、作品調査の
ために訪れてから、早1年半。ようやくその「ロップス展」が開幕となった。
多くの関係者の何年にもわたるご協力があった展覧会は実現にこぎつける
のだが、今回、毒も飲み込んだロップス芸術には少し耽溺あれ!
【高松市美術館学芸員 毛利直子】

お問いわせ

- ◆ ボランティア通信「しびの一」、シヴィのギャラリートークに関するご意見・ご感想
 - ◆ 本紙記事「知った?美術館」で取り上げてほしいもの
 - ◆ 美術に関する素朴な疑問...etc
- などがありましたら、郵送・ファックス・美術館内のアンケート等でお知らせください。
シヴィの活動および、しびの一の紙面作りへの貴重な参考にさせていただきます。

高松市美術館 ボランティア係
〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 TEL087-823-1711 FAX087-851-7250
高松市美術館ホームページ http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/youiku/bunkabu/bijyutu/index.html
展覧会やワークショップの案内など、最新の情報を満載!いちど、のぞいてみてください!

利用案内

【開館時間】
火~金:9時30分~19時
土・日・祝日:9時30分~17時
(展示室の入室はいずれも閉館30分前まで)

【休館日】
月曜日(ただし、休日と重なる場合はその翌日)
年末年始(12月29日~1月3日)